

大学等名	多摩美術大学
テーマ名	テーマ2：地域活性化への貢献（広域展開型）
取組名称	学生プロデュースによる地域伝統工芸活性化
取組学部等	美術学部、造形表現学部
取組担当者	美術学部環境デザイン学科 学科長・教授 田淵 諭
取組期間	平成17年度～平成18年度
Webサイト	http://www.tamabi.ac.jp/kyoumu/gendaigp/edogawa/index.html

取組の概要

本学は平成15年度から、東京都江戸川区において、伝統工芸師と区と美大の産官学連携による【えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト】を実施し、伝統と若い感性が融合したデザインを提案する教育プログラムを実践してきた。本取組「学生プロデュースによる地域伝統工芸活性化」は、それらの活動を通じて制作された学生のアイデアと工芸師の技による試作品群を商品として戦略的に捉え、学生プロデュースによるブランディングを行い、地域伝統工芸の活性化を図るものである。

活動は、作品集等の制作やデザイン展の開催等によって、試作品・ブランドを外部へ向けて発信・周知することが主となる。そして、伝統の後継・保存を視野に入れつつ、学生のデザインマネージメントが出来る総合的なプロデュース能力の育成と、区の伝統工芸の新たな価値観の構築や地域の活性化を目指す。

実施の経緯・過程

[取組の実施状況]

本取組は、【えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト】と並行して進められ、平成17、18年度の2年間で、次の計画を実施した。

(1) えどがわ伝統工芸のブランド化

ブランド化へ向けての企画立案：各方面で活躍するプランナー・デザイナーを講師に招きワークショップを行い、えどがわ伝統工芸のブランディング提案と、それによる地域活性化を目的とした、区内に建設が予定されているえどがわ伝統工芸センター（仮称）構想の基本計画をまとめ、江戸川区に提案した。また、同センターの設計を受注している大手設計事務所へのヒアリングと意見交換もを行い、まさに実社会さながらの立場において教育を行った。その他、国内の伝統工芸と自治体の関わりについて比較検討するため、隣接する区で行われている類似の取組、デザインと伝統を生かしたものづくり産業の活性化の事例を調査した。

作品集等の制作：成果工芸品のチラシ・作品集を制作し、東京デザイナーズウィーク2006コンテナ展、100%DESIGN（ロンドン）、江戸扇子+美濃和紙展等で来場者に配布し、本取組及びえどがわ伝統工芸ブランドを発信・周知した。

デザイン展の企画・主催：本取組及びえどがわ伝統工芸ブランドを発信・周知するため、次のデザイン展を開催した。

《平成17年度》 ・東京デザイナーズウィーク2006 コンテナ展「EDOGAWA PROJECT」

（神宮外苑_11/2～6）

- ・「えどがわ伝統工芸プラス」(東京国際フォーラム_3/6~3/12)
- 《平成 18 年度》
- ・100%DESIGN「EDOGAWA PROJECT:wa」(ロンドン_9/21~24)
- ・東京デザイナーズウィーク 2006 コンテナ展「Edogawa Dento Kogei +」
(神宮外苑_10/30~11/5)
- ・「江戸扇子+美濃和紙デザイン展」(六本木アクシスギャラリー_3/2~4)

Web 上のヴァーチャルモールの立ち上げ：本取組及びえどがわ伝統工芸ブランドを発信・周知するサイトを開設し、国内外を問わずリアルタイムに情報提供を行った。

《えどがわ伝統工芸プラス》

<http://www.ei-net.city.edogawa.tokyo.jp/dentou/exhibition/>

(2)プロジェクト科目の開講

伝統工芸の歴史・技術・素材・保存と再生等について学ぶ授業を開講し、各種の基礎講座、工芸師による連携講座、ワークショップ等を行った。また、本取組 2 年目の平成 18 年度においては、新たな授業形態として全学科横断的に履修出来る課題解決型授業「PBL 科目」を開講し、本取組の学内におけるさらなる発展・浸透を図った。本取組に係る PBL 科目は約 100 名の履修生があり、多くの学生に本取組に参加する機会を与えることに成功した。

新しい作品作りを試みた授業では、春には伝統工芸師のレクチャーを区で行い、各学生は、PBL 授業を受けながら、週末には、各学生が選んだ伝統工芸師の所に通い、工芸の技と心を学んだ。夏には各学生が伝統工芸師と教員、区の担当職員にプレゼンテーションをおこない、選ばれたものを秋には伝統工芸師が制作を行い、新年には区のホールで展示会を行った。本取組期間中に学生のデザインと伝統工芸師の技との競作による 58 点もの作品・商品が世の中に出された。

デザイン展を企画・実行する授業では、様々な学科から構成された学生がミーティングを繰り返し、東京デザイナーズウィーク 2006 コンテナ展の展示空間のデザインから施工まですべてを行い、約 8000 名の来場者があった。

(3)その他

PBL 委員会の設置：前述の PBL 科目の開講にあたり、各学科の教員と職員から構成される PBL 委員会を組織し、全学科横断的な履修を前提としている PBL 科目のプロジェクトのテーマの教育的妥当性の精査等を行った。(平成 17 年度 3 回、平成 18 年度 5 回開催)

GP プロジェクトルームの設置：GP プロジェクトルームを設置し、同室への専属職員の配置やプレゼンテーション用機材等の整備を行い、本取組の学内における推進体制を整えた。

事業報告書の制作：本取組に係る事業報告書を制作し、関係諸団体・他大学等に配布し、本取組及びその成果を周知した。

[教育課程・教育方法の工夫]

本取組の効果を高めるため、次の教育課程・教育方法を採用し、成果をあげることが出来た。

(1)全学科横断の新しい授業形態の導入 (PBL 科目の開講)

本取組をキャンパス内により一層広めるため、平成 18 年度にカリキュラムの一環として、全学科横断的に履修出来る PBL 科目を開講した。PBL は Project Based Learning の略で、従来の系統的学習とは異なる課題解決型の新しい授業を表す。PBL 科目では、企業・自治体から提案された課題を、実社会の生きた教材として授業に取り入れ、そして、その課題をもとにプロジェクトを立ち上げ、学科の枠を超え、学生自身が主体的・実践的に課題解決に取り組む。

P B L 科目の最大の魅力は、学科を超えたコラボレーションによって取り組む点にある。本学は、絵画・彫刻からデザインまでの美術分野を網羅する 12 学科で、各学科の高度な専門的表現力を磨くカリキュラムを提供してきた。しかし、その各々の専門性を結びつける横断的なカリキュラムを提供することは、それぞれの専門性があるために、長い間実現に至らなかった。そのような歴史を経て今、実社会と密着した P B L 科目の導入により、学科間の垣根を超える教育が実現した。多様化する社会・価値観の中で総合的・多面的な視点を持ったデザイン・作品が求められている今日にあって、異なるジャンルの学科・学生が参画することによって得られる経験は、学生の様々な能力を養う授業形態として、今後ますます広がりを見せることが期待される。

(2)外部評価を学生にフィードバックするシステムの構築

国内外での展示等を行うことによって、エンドユーザーからの多様な評価・声を学生にフィードバックするシステムを構築した。これにより、通常の大学教育の不足部分であった、実社会で通用するデザインを学ぶための実社会からの評価を補完することが出来た。

目的に対する成果、人材養成面での達成度

[学生に対する教育効果]

表層の文化に流され、自分達のアイデンティティを見失いがちな今日の学生に、職人の技に対する妥協のない世界を体験させることで、日本の伝統の深さと驚きを体験させ、工芸師の生き様を知り、尊敬を得ることの出来る貴重な体験をさせることが出来た。伝統工芸師の所へ数を重ねて通うことで、モノを作る技以外に、モノ作りの心を学ぶことが出来た。中には本取組終了後も弟子入りのような状態で創作活動に励む学生も出てきた。

また、ブランド化を推進すべく行った作品集等の出版やデザイン展の企画・主催をとおして、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、実社会と直結したデザインを考える能力、多角的な視点、チームワーク、調整能力、責任感といった、学生の総合的なプロデュース能力を養うことが出来た。

[地域伝統工芸の活性化に対する効果]

国内外に広く周知されたことにより、すでに商品化された作品には、販売実績を上げているものも出てきており、地域の活性化に貢献することが出来た。また、近隣の地域等において、本取組と同種のプロジェクトが広がりつつあり、当該分野の今後のさらなる発展が期待される。

自大学の教育改革への影響、他大学等への波及効果、地域社会等への波及効果

本取組の選定を契機に、本学では、全学の学生が自由に選択出来る実技カリキュラム、P B L 科目を立ち上げた。これによって、長年の本学の望みであった全学共通の実技カリキュラムを複数開講することが出来、大学全体の学生ならびに教師間の交流が出来、教員の意識改革・F D にもつながった。そのような効果の周知により、他大学からも、カリキュラムへの導入方法についての問い合わせ等が入るようになった。

また、本取組の活性化に対し、江戸川区は、区の産業振興の一環として篠崎に（仮称）伝統工芸センターの開設を計画するに至った。その他、本取組の手法を元に、江戸川区が独自にデザイン展での P R 等に取り組むようになった。

学生等の評価

本取組に係る様々な授業は、多くの受講生から、後輩に勧めたい授業、履修して良かった授業等の高評価を得た。また、履修学生が年を追う毎に増加する傾向にあり、学内の知識を得る講義や、スキルを学ぶ実技に加え、職人の技や伝統の心を学ぶことが何物にも代え難いという声が多く聞かれた。また、チラシ・作品集から会場づくりまでの総合的なプロデュースに主体的に携わられたこと、大学の外で実社会からの多角的な評価を得る機会を得たことは、とても有意義で貴重な経験となったとの声が多数寄せられた。

進学相談会等でも、本学の受験動機として、本取組を挙げる受験生がいる。

学外からの評価

国内外での様々なデザイン展の出展等により、数多くの商談が寄せられることとなり、江戸川区産業振興課からは、江戸川伝統工芸の周知と活性化に貢献したとの高評価を得た。また、東京国際フォーラムの展示では、伝統工芸と美大のコラボレーションの成果に注目が集まり、多くのマスコミに紹介された。その他、関連諸団体・企業・他大学等からは、複数学科共同での有機的な創作活動を行うことは、多角的な視野や高いコミュニケーション能力を持ったデザイナー・作家の養成につながるとして、高評価を得た。

取組支援期間終了後の展開

本取組は、支援終了後も継続を予定しており、えどがわ伝統工芸師の技術と、学生たちの瑞々しい感性の融合の中から生まれてくるこの取組と作品をブランドとしてしっかり位置付ける仕掛けを作りたいと考えている。また普及力や販売力の弱い伝統工芸師の支援を、デザインを通して行うことで、全国の同種の伝統工芸師や地域の地場産業を活性化させていく予定である。

本件お問い合わせ先

住所 192-0394 東京都八王子市鎌水 2-1723
多摩美術大学 研究支援部研究支援課
Tel 042-679-5695
Fax 042-679-5694
E-mail gp_info@tamabi.ac.jp